

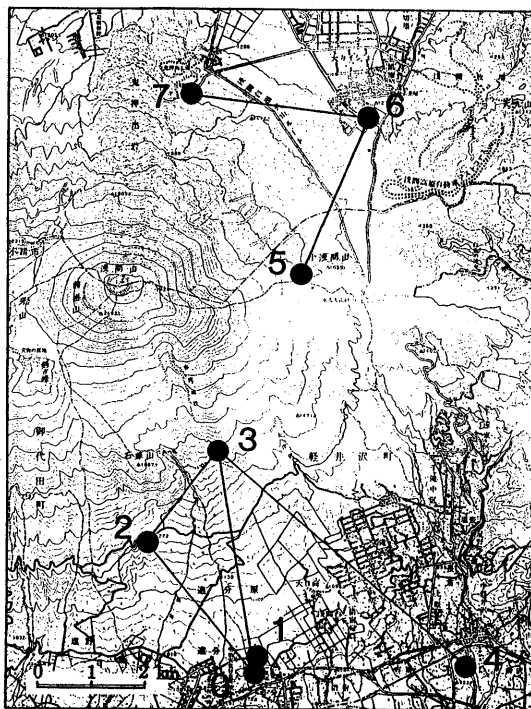
浅間山における辺長測量（1985年11月）*

気象研究所地震火山研究部

気象研究所では、浅間山において1976年以降光波測量を実施してきた。^{1), 2), 3), 4), 5), 6)} 今回は、1985年11月19, 20日に実施した測量結果を報告する。

第1図に測量用基線網を示す（1980年以降、1-2, 1-3はそれぞれ0-2, 0-3に変更）。第2図に各測線の歪変化と浅間山の火山活動（噴火と火山性地震）を示してあるが、歪変化には前回と比べ、特に変化は見られない。地震活動も、1983年4月8日の噴火以降極めて低調であり、浅間山は静穏な状態が続いていることがわかる。

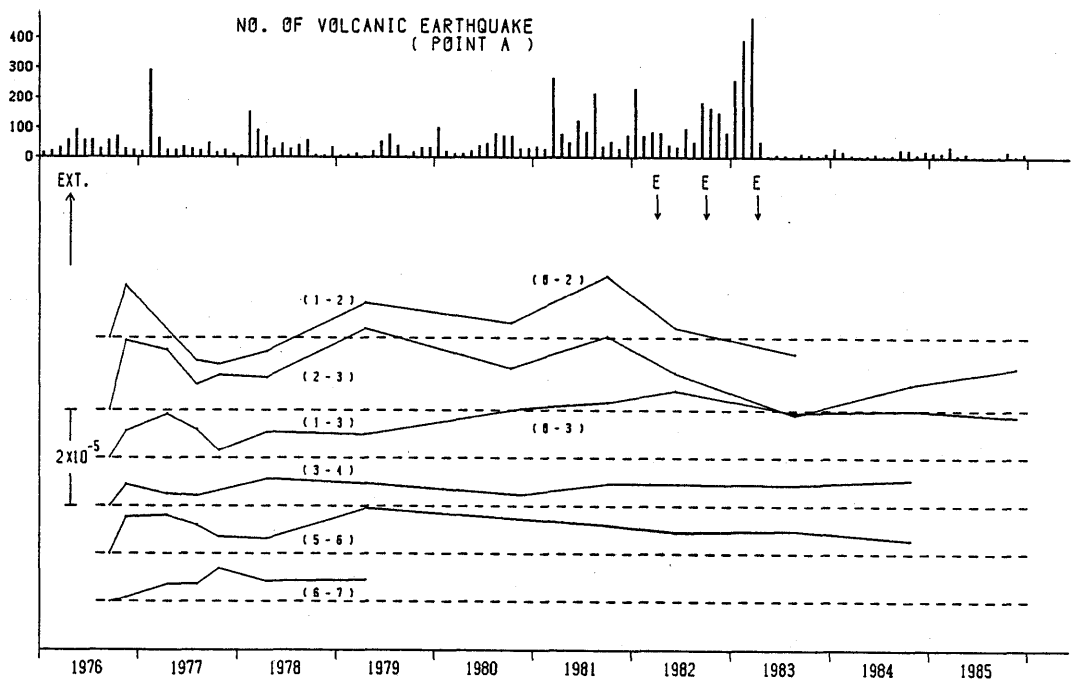
第1図に示すように、浅間山には計6本の測線を設けてあるが、樹木の成長のために6-7は1980年から、0-2は1984年から、また5-6は今回から測量不可能となった。今後の対応について現在検討中である。



第1図 浅間山における辺長測量用基線網

Fig.1 Locations of the base line for the distance measurement at Asama Volcano.

* Received March 5, 1986



第2図 測線の歪変化と月別A型地震発生回数(A点), E:噴火

Fig.2 Variation of strain of each base line and monthly frequency of A-type volcanic earthquake (Point A).
E: denotes the Eruption.

参 考 文 献

- 1) 気象研究所地震火山研究部(1979): ジオジメーターによる火山周辺の地殻変動の測量, 気象研究所技術報告, **2**, 39-66.
- 2) 同上(1982): 浅間山における辺長測量, 噴火予知連絡会報, **23**, 26-27.
- 3) 同上(1983): 浅間山の噴火と伸縮, 同上, **26**, 36-38.
- 4) 同上(1984): 浅間山の光波測量, 同上, **29**, 54-56.
- 5) 同上(1985): 浅間山の伸縮, 同上, **33**, 39-41.
- 6) 田中康弘・中禮正明・澤田可洋・柴田武男(1982): 活火山における光波測量の精度と有意測線の検出, 気象研究所研究報告, **33**, 175-185.